

**北海道科学大学**  
**教学 IR に関する活動報告書**

2026 年 9 月

## 北海道科学大学の教学 IR に関する年次活動報告書

この報告書は、北海道科学大学（以下本学）の教学 IR 活動の概要を自己点検 IR 委員会でまとめたものです。本学の教学 IR 活動に関する報告としては、2022 年度に近年の本学における主要な活動の内容をまとめた報告書を初めて作成し、学外公開しております。2026 年度版となる本報告書は、2025 年度版に続き年次報告書という位置づけで作成しており、主に昨年度版からの更新・変更点を報告するものになります。従前から継続している教学 IR 活動に関しては、「[2022 年度版の報告書](#)」をぜひご参照下さい。

### 1. 自己点検 IR 委員会の業務と本学の教学 IR 活動について

自己点検 IR 委員会は、本学の内部質保証の責任を負う自己点検・評価委員会（委員長は学長）の下部組織であり、自己点検・評価委員会の求めに応じ、自己点検・評価のための情報収集、整理を支援するとともに、教学 IR 活動を行う委員会です。

#### 【自己点検 IR 委員会の活動方針】

本学の「[内部質保証の方針](#)」にのっとり、内部質保証に関する活動や自己点検・評価委員会の活動をサポートする役割を担います。

本学の教学 IR は分散型の IR であり、自己点検 IR 委員会の業務は大学全体の教学 IR 活動の一部といえます。自己点検 IR 委員会では、学内各部署で作成された教学に関するデータのうち、本学の「[アセスメントプラン](#)」で定められた 3 ポリシーを起点とする学修成果、教育成果の点検に係るデータについて、集約し分析を行うとともに、大学全体及び各学部学科が行う点検向け資料として整理し配信しています。

#### 【2026 年度の活動計画（教学 IR に関連する内容）】

- ① 学修成果の評価とその可視化（中期事業計画「I-4.学修成果の可視化と活用」）
  - 学修ポートフォリオ(UNIPA 上)の整備
  - 学位プログラムを通じた学修成果の把握に向けた取り組み
  - 共通（学科）長期ループリックを活用した学生調査の実施
  - 外部試験（PROG 継続等）の検討
  - 大学院内部質保証に向けた整備
- ② 質保証について、組織内の理解を促し、組織文化として定着を図る
  - 内部質保証と教学マネジメント指針の浸透、FD・SD の実施
- ③ 活動報告作成公開，IR に関する研修会主催
- ④ 機関別認証評価受審に向けた準備
  - 外部評価受審支援，自己点検評価書の作成
- ⑤ IR 活動報告公開，IR に関する研修会主催

⑥ 大学院内部質保証に向けた検討

## 2. 教学 IR に関連する活動

表 1 自己点検 IR 委員会の教学 IR に関連する活動スケジュール

| 時期         | 活動                           | 連携部署             |
|------------|------------------------------|------------------|
| 3 月末～4 月   | 教育目的達成度調査                    |                  |
| 5 月（～10 月） | PROG（1 年生，3・4 年生）            | キャリア支援 C         |
| 5 月        | 大学 IR コンソーシアム大学データ・学生データ登録   |                  |
| 6 月（～7 月）  | PF 個別面談（学修成果について）            | 学生支援 C           |
| 7 月（～9 月）  | 卒業生調査，企業調査，連携協定団体との協議        | 就職支援 C           |
| 7 月（～9 月）  | 学科教育自己点検会議（3 ポリシーとカリキュラム）    |                  |
| 7 月        | 教学関連データの集約と配信                | 学生支援 C，FD<br>委員会 |
| 9 月（～11 月） | 学生生活調査（全国学生調査・大学 IR コンソ学生調査） | 学生支援 C           |
| 12 月       | 学科教育自己点検会議（シラバス点検）           |                  |
| 12 月（～3 月） | 卒業時調査（全国学生調査）                |                  |
| 2 月又は 3 月  | 学科長による総括報告会                  |                  |
| 2 月        | 大学 IR コンソーシアム大学学生調査データ登録     |                  |

※学生支援 C→学生支援センター，キャリア支援 C→キャリア支援センター

2025 年～2026 年にかけても，上記のスケジュールの通りに，本学の学修成果や教育効果の評価を行う際に活用する学生調査や外部試験等を実施しています。各学生調査や外部試験の概要については，「[2022 年度版の報告書](#)」をご参照下さい。さらに，学科教育自己点検会議向け資料の学科への提供など，教学 IR に関する分析と学内部局への情報配信を行っています。本報告書及び昨年度の報告書で取り上げなかった集計結果等については，本学ホームページの「[情報公開：教育の質に係る客観的指標](#)」にて公開していますのでこちらでご確認下さい。

## 3. 教学 IR データを用いたモニタリングと分析例

ここでは，2025 年～2026 年にかけて，自己点検 IR 委員会が行った教学 IR に関する分析や，学内部局への情報配信の事例のうち，2022 年度版報告書に含まれない事例を紹介します。

### 3.1. 2024 年度「全国学生調査（第 4 回試行実施）」結果と 2025 年度本学結果の比較

本学は 2014 年より大学 IR コンソーシアム (<https://irnw.jp/>) に加盟しており、コンソーシアム内共通の学生調査を、学生の満足度や能力伸長に関するモニタリングに活用しています。2024 年度以前は、本学固有設問を加えて学生生活調査及び卒業時調査として実施し、結果の経年比較に基づき分析を行ってきました。2024 年度本学は全国学生調査試行実施に参加したため、2 年次生と卒業年次生については全国調査の設問に本学固有設問を加えて調査を実施し、他の学年については従来通りの調査を実施しました。さらに、2025 年度には全国調査が本格実施に移行し大学 IR コンソーシアム学生調査の設問も全国学生調査を内包する設問に移行したため、全学年で全国学生調査設問を含む大学 IR コンソーシアム学生調査に本学固有設問を加えて、学生生活調査及び卒業時調査として実施しました。

2025 年度の分析例として、2024 年度全国学生調査（第 4 回試行実施）における全国平均と、本学の 2024 年度の結果、さらに本学の 2025 年調査における 2 年生と卒業年次生の結果の比較を紹介します。

問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力が身に付いたと思いますか。

平均値：身に付いた「4」、ある程度身に付いた「3」、あまり身に付いていない「2」、身に付いていない「1」として算出。

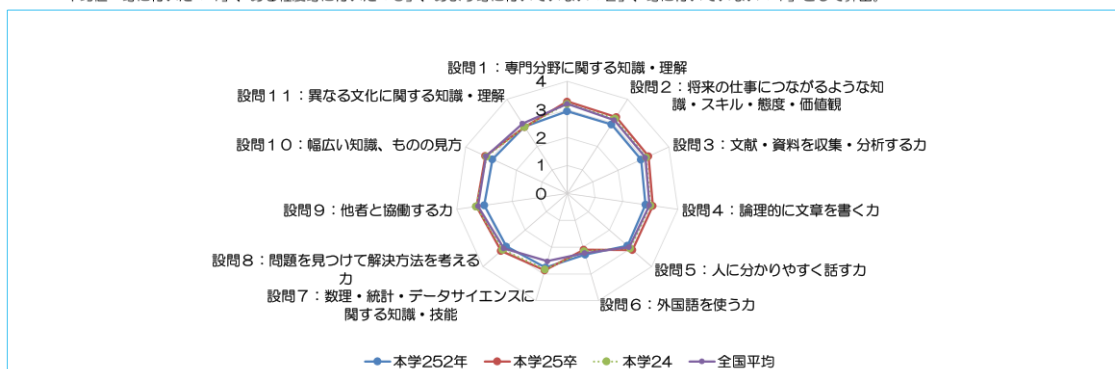
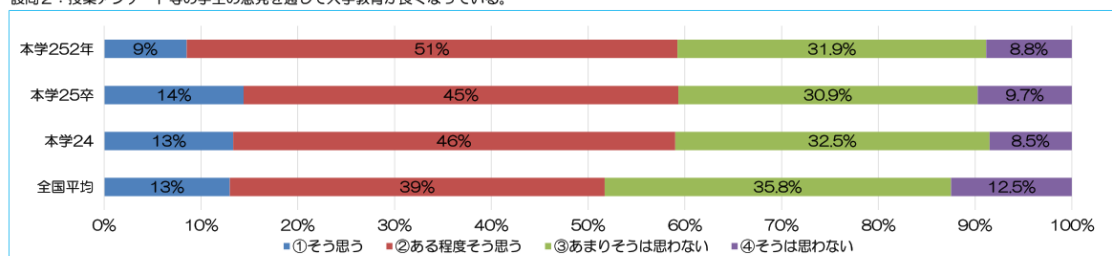


図 1 集計結果の比較例 1 大学教育を通じて身に付いた知識や能力

問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

設問2：授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。



設問3：教職員が熱心に教育に取り組んでいる。

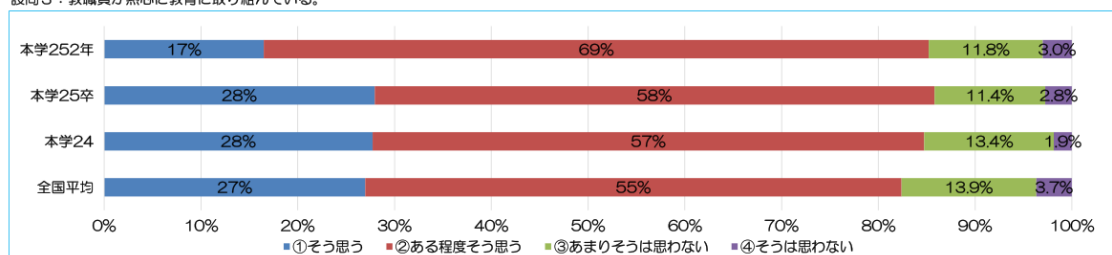
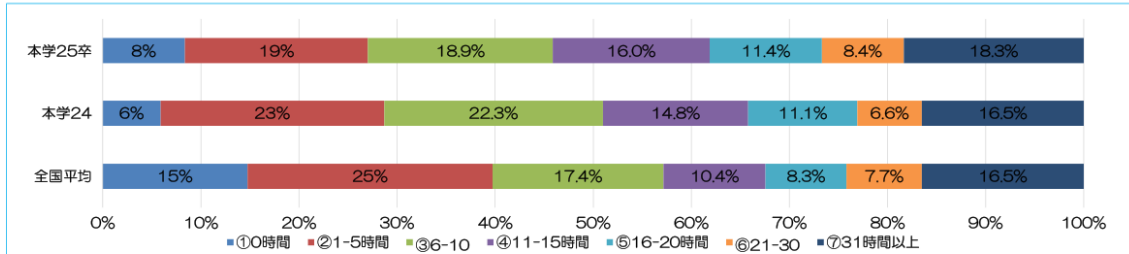


図 1 集計結果の比較例 2 大学教育の改善と教員の熱意

問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれどのくらいですか。

設問2：卒業論文・卒業研究・卒業制作（第2学年を除く）



設問3：予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文等は除く）

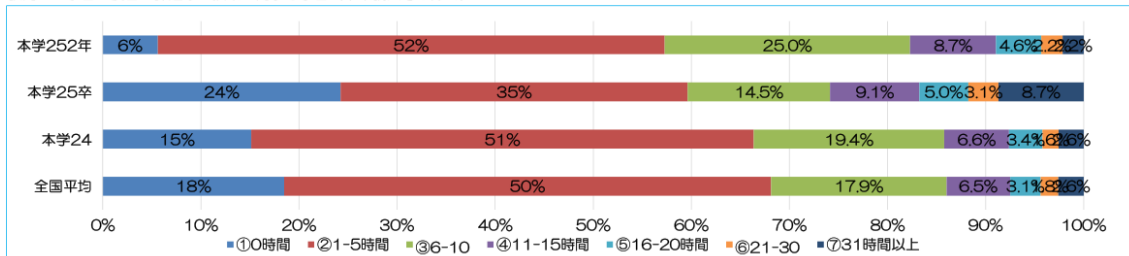


図 1 集計結果の比較例 3 卒業研究と授業外学習時間

身に付いた能力・資質に関する自己評価の比較では、本学 2 年生は全国平均より同程度かやや低く、本学卒業年次生は同程度かやや高い結果となっています。また、大学教育の改善と教員の熱意に関する設問の比較でも同様の傾向が見られます。次に、卒業研究の時間については、本学卒業年次生は全国平均よりやや多いことがわかります。また、授業外学習時間については、本学 2 年次生は本学卒業年次生より多く、全国平均よりも多いことが確認できます。なお、より詳細な分析として、本学の学部別集計結果と、文科省提供の全国学生調査分野別集計とを比較した結果からは、工学系、保健薬学系の分野において、本学の授業外学習時間が全国平均より若干少ない結果となっています。

また、大学 IR コンソーシアム学生調査から継続して比較が可能と考えられる設問について、経年比較に基づく分析を行っています。主な結果は次の通りです。

- ・ 回答率は、年度、学年により差（2025 年度卒業時調査は非常に高い）
- ・ 学生生活の充実度、授業の質など、例年と同様の水準あるいは上昇傾向
- ・ インターネットの使いやすさについて、G 棟無線 LAN 導入により改善しているが、即時性と安定性を求める学生からの要望が依然として高い
- ・ 授業外学修時間はよこばい、アルバイト時間の増加傾向も継続
- ・ 分析力や問題解決能力、専門分野や学科の知識、批判的に考える能力が僅かずつ上昇
- ・ アクティブラーニングの要素、TS や SA からの授業補助が増加傾向

## 学生生活の充実度

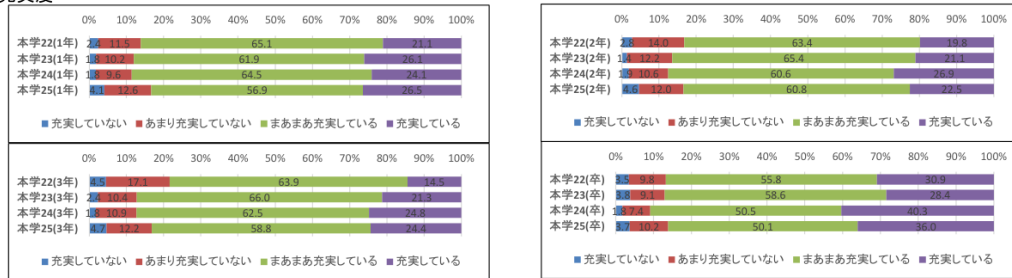


図2 集計結果の比較例1 学生生活の充実度

## インターネットの使いやすさ

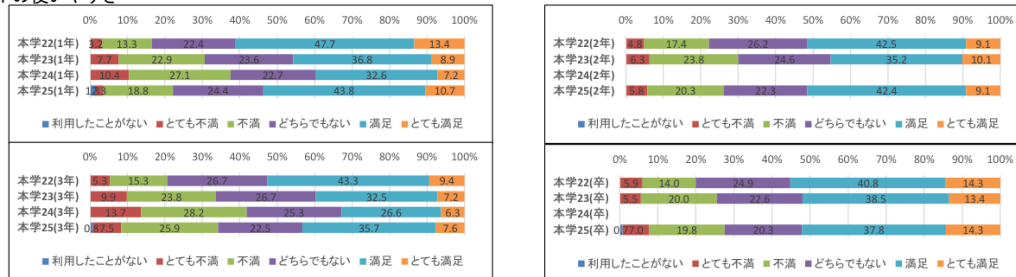


図2 集計結果の比較例2 インターネットの使いやすさ

## 授業の全体的な質

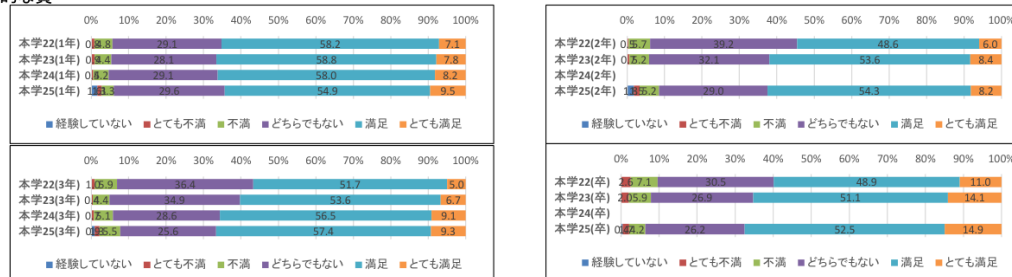
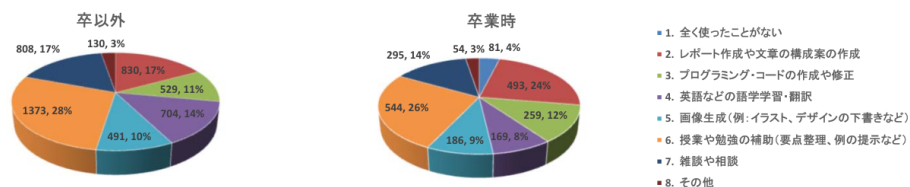


図2 集計結果の比較例3 授業全体の質

さらに、2025年度の学生生活調査と卒業時調査では、生成AIに関する設問を追加し、特に卒業時調査では生成AIの活用方法についても問う設問を追加しました。

あなたはこれまでに ChatGPT やその他の生成 AI を、どのような目的で利用したことがありますか。(複数選択可)



1以外を選択した方にお聞きします。その目的のために、生成AIをどのように使いましたか。(複数選択可)

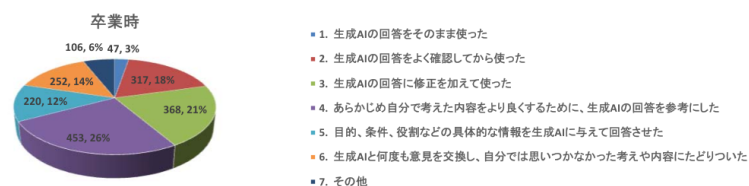


図3 集計結果 生成 AI について

また、両調査では、大学の「良い点」と「改善が必要な点」について自由記述形式の設定を設けています。これらの回答についても集約をしています。

【自由記述】20%～25% の回答率

- ・ 年々改善要望が具体化、多様化回答率：上昇傾向、年度、学年により差（2025 年度卒業時調査は高い）

### 学生生活アンケート・卒業時アンケート自由記述まとめ

|      | 良い点(学生生活)                                                                                                                      | 良い点(卒業時)                                                                                             | 改善が必要な点(学生生活)                                                                                                                                                                                    | 改善が必要な点(卒業時)                                                                                  |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| システム |                                                                                                                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習支援システム、Techful・Paizaなどの外部サービス利用など、学習を補助する仕組み</li> </ul>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>UNIPA:「戻る」ボタンが使えない、頻繁にログアウトされる、スマートフォン版のボタンの小ささ</li> <li>Moodle、UNIPA、Gmailなど、情報発信媒体が散っており、重要な通知を見落としやすい</li> <li>出席登録システム不具合や、成績開示・試験日程の通知が遅い</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>UNIPA の操作性が悪く戻るボタンが効かない、複数タブが開けない、メンテナンスが長い</li> </ul> |
| 教員   | <ul style="list-style-type: none"> <li>教員が質問に対して丁寧に対応し、学習面や進路面で親身に相談に乗ってくれる</li> </ul>                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>親身で相談しやすい、距離が近い、質問に丁寧に答えてくれる、国試対策や授業への熱意も高い</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>教員によって指導の熱意や授業の分かりやすさに大きな差がある、一部は「教科書を音読するだけ」の教員も</li> <li>メールの返信が遅い、またはない、オフィスアワーに不在</li> </ul>                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の質の差や指導方法・質問対応・資料提示の遅さ・就職支援への関与不足</li> </ul>         |
| 学習環境 | <ul style="list-style-type: none"> <li>A棟、B棟、G棟、100周年記念会館など、学内のいたるところに自習スペースが確保されており、自学自習がしやすい</li> <li>E棟などの24時間開放</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>自習スペースが豊富で空き教室や図書館・B棟・ゼミ室など多様な学習場所が利用でき、24時間利用可能な棟</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>E棟夜間に一部の照明が消えて暗くなることや、机の移動禁止</li> <li>自習場所でのコンセント不足、特にA棟1階の講義室への設置</li> </ul>                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>自習スペース不足や働学習室の廃止、24時間利用できる場所の限定、図書館の騒音</li> </ul>      |
| 環境   | <ul style="list-style-type: none"> <li>キャンパス全体が非常に綺麗で、清掃が行き届いている</li> <li>地域とのつながりを大事にし、ボランティア活動やイベントがしっかり行われている</li> </ul>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>校舎が綺麗で清潔かつ快適</li> </ul>                                       |                                                                                                                                                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>一部警備員の態度について指摘あり</li> </ul>                            |

図4 自由記述要約の一部

これら学生生活調査及び卒業時調査の集計結果と分析内容については、自己点検 IR 委員会で確認の後、自己点検・評価委員会において大学全体のモニタリングや自己点検評価のために活用しています。また、集約結果の一部は本学ホームページの「情報公開：教育の質に係る客観的指標」にて公開しています。

### 3.2. 入学前教育、学力調査（プレースメントテスト）、4月末欠席と前期末修得単位・GPAを用いた分析

2025 年度の本学 1 年生について、入学前教育の取り組み度合い、入学時のプレースメントテスト結果、UNIPA 出席システム上の 4 月末の欠席回数、前期終了時点での修得単位数

と GPA を用いた分析, 特に学生の類型についての分析を行いました。

## 入学前教育、学力調査PT、4月末欠席と前期末修得単位数とGPA

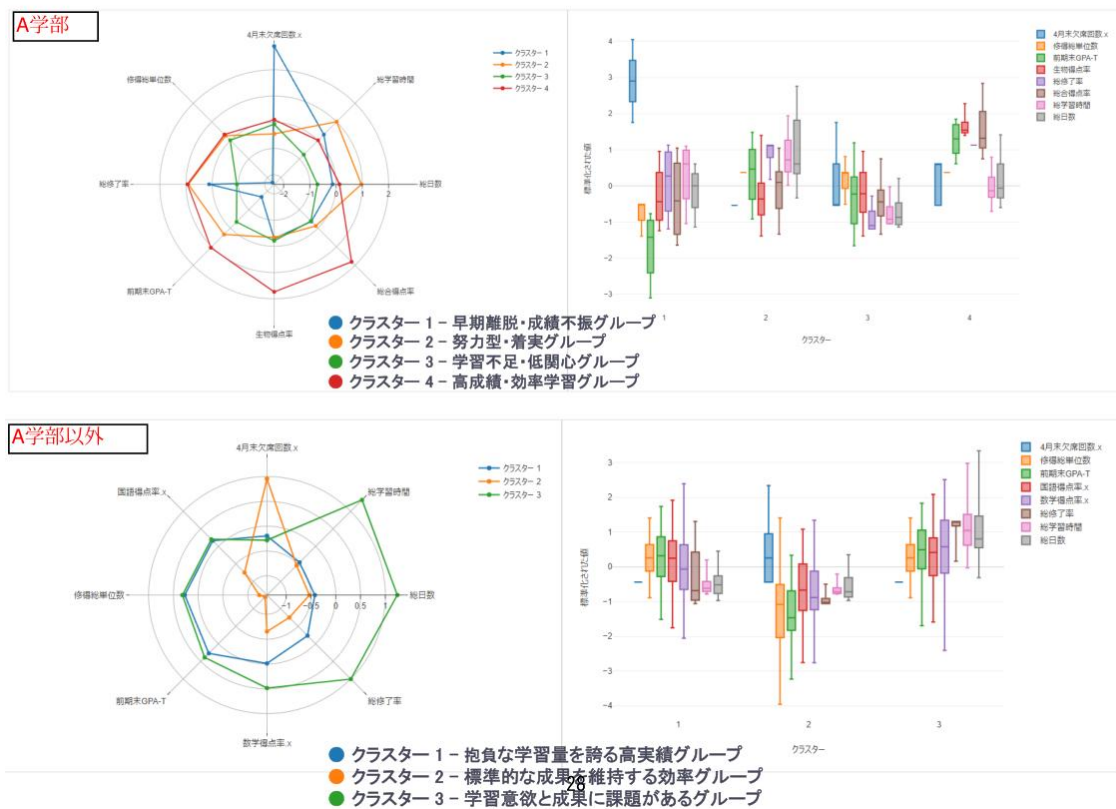


図5 分析例1 入学前学習を含む年内選抜乳入学者に対する分析

## 学力調査PT、4月末欠席と前期末修得単位数とGPA

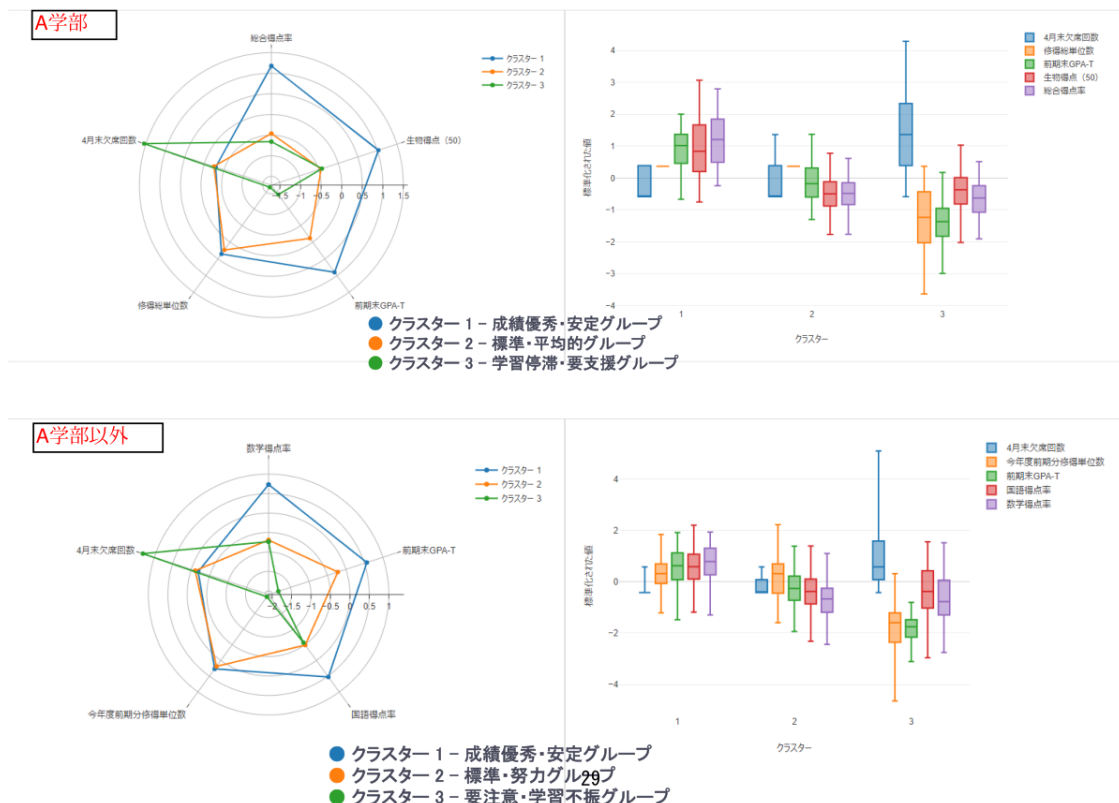


図5 分析2 入学前教育を除いた全入学生に関する分析

これらの分析から、次のことが確認できます。

- ・ 入学前教育の取り組みが高い学生の多くが、前期末に順調な成績評価と単位修得ができていていること
- ・ 入学前教育の取り組みが低い学生の中には一部前期末に好成績を残している場合もあるが、多くは苦戦をしている
- ・ プレースメントテストの結果のみでは前期末の状況の予想は難しく、4月末の欠席が多い学生は多くの場合に前期末の成績不良につながっている

これらの分析に加えて、6月末・10月末・12月末の欠席状況、さらに1年次 PROG スコアや、学生生活調査における学生生活の満足度などの情報を加えた分析も行っており、これらの結果からは次のことが確認できています。

- ・ 6月末に欠席が多くなると前期末成績はほぼ確実に悪化し、多くの場合後期になっても学習習慣が改善せず、後期も欠席が多い状況が続き、年度末の成績悪化に大きく影響する
- ・ この傾向は、卒業年次を除いた高学年でも同じように見られる
- ・ PROG スコアのリテラシーは成績との相関が高い

- ・ 高コンピテンシー学生のうち一部は勉強以外の活動に大学生活の熱量を注いでいる場合もあるためか、好成績でない集団もある
- ・ 一方で、コンピテンシースコアが低い場合でも、堅実に勉強に向き合い、好成績ではないものの順調な進級をしている集団がある
- ・

### 3.3. 活用事例

最近の教学 IR 活動の活用事例をまとめると次のようになります。

#### 【大学全体の評価について】

- 学生生活調査及び卒業生調査の集計結果・自由記述内容を各担当部署へフィードバックすることによって、次のような改善施策が行われています。
  - ・ G 棟への無線 LAN 設備の導入
  - ・ 学習スペースの確保
  - ・ 学生向けカラープリンターの教室外設置、カラープリンター機種更新
  - ・ 学内ネットワークの回線強化
  - ・ 図書館リニューアル（100 周年記念会館）、適切な図書館利用に向けた指導
  - ・ 学生対応・ハラスメント防止のための全学 FD・SD 講演
- 学科長による総括報告会における課題報告がきっかけとなり、2024 年度からの新カリキュラム策定に際して、全学共通のディプロマ・ポリシー大項目の一部変更や、新しい全学共通科目群「HUS スタANDARD」の策定を行っています。

#### 【学科（教育課程）と授業に関する評価】

- 毎年実施する学科教育自己点検会議における検討内容を活用して、2024 年度からの新カリキュラム策定を行い、科目の位置づけの変更や科目の統合改廃を行っています。また、今後に予定されるカリキュラム策定に向けた点検と改善を継続しています。

#### 【学生を対象とする評価】

- PF 個別面談の際の学修ポートフォリオを用いた形成的な学修成果の振り返りによって、学生に自身の所属する学科のディプロマ・ポリシーや育成する人材像の認識が高まっていると考えています。

また、教育に関する内部質保証の考え方の教職員への浸透を目的として、FD 委員会と協力し IR 委員長が講師を担当するミニ FD/SD 教材動画 9 本を作成し、年間を通した研修プログラムとして 2025 年度を通して実施をしました。2026 年度にも新任教職員向けプログラムとして継続実施するとともに、作成した教材は学内情報配信サイト HUS ポータルよ

り学内公開し、いつでも視聴可能な資料として活用しています。

#### 4. まとめと今後に向けて

この報告書では、本学の教学 IR 活動の概要として、2024 年～2026 年にかけて行われている自己点検 IR 委員会による教学 IR 活動を報告しました。

本学の教学 IR 活動の高度化と更なる充実に向けて、今後は次の点に取り組む予定です。

- ・ 中期事業計画「I-4.学修成果の可視化と活用」(学位プログラム全体にわたる専攻分野固有のコンピテンシーや学修成果を直接評価する情報の検討と可視化，共通長期ルーブリックの活用，学科固有長期ルーブリックの作成)
- ・ データの収集・整理・加工・配信・閲覧のシステム化及び web 化（試験的なデータベースの構築，資料作成のシステム化，配信の web 及び BI ツールの活用，学科教学 IR ポートフォリオや科目コースポートフォリオの実現）
- ・ 分析対象の拡大（学籍異動学生の実績分析，エンロールメント・マネジメント IR，在学中に能力伸長した学生の実績分析，卒業後活躍している人材の実績分析）
- ・ 分散協力方式の教学 IR の発展（学修ポートフォリオ機能強化，デジタルバッジ，教育イノベーションセンターの IR 機能）
- ・ 教育に関する内部質保証の考え方の教職員への浸透と，IR に関する専門人材・後継人材の育成
- ・ 内部質保証の機能化に向けた IR の高度化（財務 IR との連携強化，大学運営に関する自己点検・評価活動との連携）

以上